

『元労働基準監督官が重大災害から読み解く原因と対策』

重大災害が起きた瞬間、会社はこうして追い詰められる

“止めなかった理由を、あなたは説明できますか？”

重大災害が発生した瞬間から、会社は一気に「調査される側」に回ります。

現場封鎖、実況見分、関係者への事情聴取。そして必ず問われるのが、「なぜ事故を止められなかったのか」「安全担当者は、何をしていたのか」という点です。

本セミナーでは、元労働基準監督官が講師となり、実際に3人以上が被災した重大災害8事例をもとに、事故発生後、行政が何をみて、誰を呼び、何を聞くのかを、監督官の視点から具体的に解説します。

形だけのKYや手順書では、事故は防げません。求められるのは、「やっている安全」ではなく、「現場を止められる安全管理」です。事故が起きる前に止めるための判断軸を、本セミナーで習得してください。

■講師 尾形 賢一 氏（元奈良労働基準監督署 署長）

■開催方法 ハイブリッドセミナー（会場+WEB）

■会場開催 令和8年3月24日（火） 13:30～16:30 ■WEB開催 Zoom

■見逃し配信期間 令和8年4月2日（木）～4月23日（木）（※申込者は全員視聴可能です）

【カリキュラム】

<p>1. 事故が起きた瞬間、会社に何が起きるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重大災害発生直後に始まること (現場封鎖、実況見分、事情聴取)</li> <li>・監督署は誰を呼び、何を聞くのか</li> <li>・「安全担当者は関係ない」は通用しない</li> <li>・令和6年 労働災害発生状況</li> </ul>	<p>2. 重大災害8事例から学ぶ「なぜ3人以上被災したか」 —概要・原因・対策・監督官の視点—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[事例①] 工事中 6,600V の高圧電線に接触</li> <li>[事例②] シャッター修理中、3人が重軽傷</li> <li>[事例③] マンホール内で一酸化炭素が発生</li> <li>[事例④] 塗料から有機溶剤を吸引</li> <li>[事例⑤] 水酸化ナトリウム水溶液を浴び負傷</li> <li>[事例⑥] 塗装作業中に粉じん爆発</li> <li>[事例⑦] 貯湯槽清掃作業中に硫化水素中毒</li> <li>[事例⑧] 雨水管取替工事の土砂崩れ</li> </ul>	<p>3. 監督官が伝える本場に必要安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形骸化させないために</li> <li>・行政が評価する「実効性ある対策」とは</li> <li>・教育・KY・手順書を機能させる工夫</li> <li>・現場で使える「止める判断軸」</li> <li>・「やっている安全」から「止められる安全」へ</li> <li>・不安全行動の心理的要因の深掘り</li> <li>・組織的な安全文化の構築</li> </ul>
<p>4. 元監督官が語るここだけの話</p>		

■会場 大阪長堀貸会議室 大阪市中央区南船場 1-11-9（長堀安田ビル内）（長堀橋から徒歩2分）

■WEB Zoom

■受講料 11,600 円（税抜価格 10,546 円）

【問合せ先】労働調査会 関西支社 担当：佐々木 大阪市西区阿波座 2-2-18 TEL 06-6541-3045

受講申込専用 FAX 06-6536-6219

令和 年 月 日

受講者氏名	※受講方法を選択してください
(ふりがな)	<input type="checkbox"/> 会場受講 <input type="checkbox"/> オンライン (Zoom) 受講

事業所住所	〒		
事業所名			
TEL		FAX	
E-Mail	(必須)		